

※評価委員会評価がs、a、b、c、d
 の評価のうち、b（概ね達成）以
 下の評価項目（小項目）に対する
 反映状況を掲載

公立大学法人長野県立大学

評価結果反映状況一覧 【令和元(2019)年度版】

評価項目（全体評価・大項目・小項目）		委員会評価の ↑↓	評価における主な指摘事項 *小項目順に記載 【対象：R元年度(2019年度版)】	法人の業務運営等への反映状況（R2年度）	自己評価 R2年度
大項目	小項目 自己点検・評価より評価を下げた項目				
3	31	↓b	<p>（授業改善アンケートの実施） 学生に授業改善アンケートを行い、各教員に結果に対する「教員の所見および改善に向けた今後の方針」にコメントを記入させ、改善につなげるよう促したことは評価できるが、全学的に「アンケート結果をシラバスに反映するなど授業の改善につなげる」という取組ができたかという点では不十分と判断し、大学の自己点検評価より低い評価とした。</p>	<p>学生に対する授業改善アンケートを学期ごとに年4回Webにより実施した。 結果を授業の改善につなげるため、FD・SD委員会において、学期ごとにアンケート結果の状況確認を行ったほか、理事長や学長、学部長、学科長等にも共有した。また、アンケートのより効果的な分析方法や授業改善に向けた取組の検討を行うとともに、各授業担当教員へ担当授業のアンケート結果に対する、授業改善に向けた今後の方針を検討するよう促した。</p>	a

大項目	小項目 評価委員会の評価がb又はcであった項目			
1	18	c	<p>(学生の英語力の向上)</p> <p>TOEICの点数について、入学時からの平均点の向上、600点以上の学生の増加は評価できるものの、2年次修了までに全学生が600点以上という目標達成には至っていないため、抜本的な対策を検討する必要があると思われる。この取組は県立大学の特長でもあるので、目標に向かってしっかり取り組んでいただきたい。</p> <p>2年次の235人の学生が2月にTOEICを受験し、600点以上は37.4%となった。 年度計画の目標には達しなかったが、600点以上の学生の割合は、入学時の4.5%から大きく増加し、平均点については、545点となったが、入学時の418点からは127点向上した。 目標達成に向けては、TOEIC対策を柱とする2年生科目を開講し、TOEIC-IP試験に向けた指導の実施や、言語教育センターによるTOEIC対策講座を新たに設置に取り組んだ。</p>	c
3	26	b	<p>(GPAを用いた成績評価)</p> <p>GPA制度については、学修成果の可視化やモチベーション向上、成績評価の基準づくりは進められているが、今後は成績評価を積極的に授業内容・方法の改善につなげられるよう、取り組んでいただきたい。</p> <p>成績評価にGPAを用いて学習成果を可視化し、学期ごとにGPAを学生に周知した。 複数教員が担当する「発信力ゼミ」において、成績評価の適正化を確保するために成績評価のルーブリック(評価基準)を構築し、授業評価の公平性と授業内容、方法の改善につなげた。</p>	b
5	56	c	<p>(科研費の申請率)</p> <p>科学研究費の申請・確保の努力をすることは大学教員にとって大切なことである。さらに、大学としてどのような研究を期待するかということも重要な課題である。科学研究費申請率の増加は大学を上げて取り組む問題であると考えられる。</p> <p>申請率向上のためのインセンティブとなるよう、「学長裁量経費」に関する要綱改正を7月に行い、支援体制を整えた。教員に申請を促すため、採択された本学教員の申請書の一部を閲覧できるようにするとともに、申請締切に向けて、申請書類を事務局職員が事前確認する等の支援を行った。 ○継続者を除いた申請率：33% 新規申請者数：13人 継続研究者数：32人</p>	c
8	77	b	<p>(教員の業績評価)</p> <p>教員の業績評価については、教員が教育、研究、社会貢献とすべてでバランスよく業績を挙げることは難しい面がある。例えば、教員が当該年度に重点的に行ったことを自己申告し、それを評価者が了解することで教員のモチベーション向上につながることも期待できる。また、学生による授業評価結果を反映させることも考えられる。工夫に富む評価方法を考えて実施していただきたい。</p> <p>教員については、試行的に教育活動や研究活動などを評価する活動評価(制度)をスタートし、2021年度以降の本格実施に向けて取り組んだ。</p>	a